

平成 29 年度 一学期始業式

校長挨拶

今年はまだまだ寒さが続きますが、それでも、桜の便りが届き、少しずつ春の訪れを感じます。

在校生の皆さんは、3 月に先輩方との別れを惜しむ時を過ごし、その後の春休みに新たな一年への助走を始めたばかりだと思います。

3 年生は、いよいよ主役の時を迎えました。全ての事に高校生活最後という言葉がついて来ます。常に前向きに、自分らしく進路を切り拓いて欲しい。

2 年生は、去年の経験を生かして鍛錬の時を迎えます。しっかり、実力を蓄えて欲しい。

さて、平成 29 年度の始めにあたり、皆さんへの希望を二つ述べます。

まずは、「文武両道」

私には、忘れられない思い出があります。それは今から 30 年程昔のことです。初任校でバレーボールの顧問をしていた或る冬の日、「家の用事で、日曜日の練習は見られないから、自主トレにする。」と言って、私は友人とスキーに出かけました。

朝から絶好の好天に恵まれたのですが、私の心は一日中解き放たれる事はありませんでした。今でもはっきり覚えています。

次の日すっかり雪焼けした私の顔を見て、キャプテンの T が言ってくれました。「先生嘘ついちゃダメだよ。練習はしっかりやったけど、やっぱり先生がいないと、、」私は少し恥ずかしかったが、涙が出るほど嬉しかった。

彼らには、「求める心」が常にあり、その心に運よく私は生かされたと今でも思っています。3 年生の夏、選手たちは目標としていた県大会ベスト 4 に駒を進めました。創部初の快挙。もちろん、勉強もよくやりました。勝つ代はそういうものです。

運動部は北信総体、文化部は全国総文祭プレ大会にむけて、そしてその先の進路実現に向けて、文武両道をとことんやり抜いて欲しい。

二つ目は、「スマホのこと」

2011 年頃から急速に普及し始めたスマートフォンは、高校生の設定で、「スマホと大人になっていく初めての人類」という CM が流れるまでになっています。

現状を否定するつもりはありませんが、スマホの中に在るものは、私たちにとってあくまでも情報でしかあり得ません。特に、言語より光や音が主役になるのは、映像を伴うメディアの宿命ですから、私のように言語を学んで来た者にとっては、この状況はとても危険な事に思えます。

何故ならば、21 世紀型学力で大切だと言われている能力は思考力、判断力、表現力です。いずれも、言語を使って考え、想像を膨らませることによって発達する能力であり、脳の機能とも言えるものだからです。

高校生、中でも女子高校生の平均使用時間が、1 日 5 時間を上回るという調査結果もあります。これは、皆さんにとって確実に悪影響です。新年度、皆さんの大切な脳を、スマホという金属の箱の中から、しばしば自然界に戻して自由にしてあげて下さい。

以上、1 学期の始業式にあたり、校長挨拶とします。